

みたか環境ひろば 第59号

平成 29年 4 月 1 日号



いまこそ再生可能エネルギー

先日、太陽光関連事業者の倒産が過去最多ペースとなっているというニュースを目にしました。太陽光発電は、2012年から始まった「再生可能エネルギーの固定価格買取制度」(FIT制度)でブームとなり、その発電量は、順調に伸びていくかと思われました。

しかし、買取価格は、初年度は高かったものの徐々に下落し、事業者の収益を圧迫してしまったようです。

とはいえ、太陽光発電は、地球環境に優しいエネルギーであることに変わりはなく、現在も事業を継続できている事業者もありますので、ブームの過ぎた今だからこそ落ち着いて検討してみてもいいように思います。

風力や、バイオマスなどの太陽光の他の再生可能エネルギーもありますし、一時のブームに乗るのではなく、私達に出来ることを考えていきたいですね。(福井)



野川のフジバカマを育てる 投稿者:安達 榮一

日頃から野川周辺にて環境に関わる様々な活動をされている安達榮一様から「三鷹市内に自生するフジバカマ」についての記事が寄せられましたのでご紹介します。

※本誌への記事の寄稿については「みたか環境ひろば第58号」をご覧ください。

フジバカマは、秋の七草の一つで、万葉集や源氏物語にも出ており、古くから日本人に親しまれてきました。しかしながら、近年、自生地が減少して、環境省のレッドリストでは準絶滅危惧種とされてしまいました。今では、貴重な植物です。

三鷹付近では、30年ほど前までは、国際基督教大学構内でも自生していたことが分かっていますが、現在では、消滅しています。ところが、5年前に国際基督教大学の近くの野川の水辺に、わずかに自生していることがわかりました。

野川の水辺は、年3回、東京都によって草刈りが行われています。フジバカマは、多年草で、根が残っていると、春、新たな芽生えがあります。フジバカマが自生している場所約120㎡を、草刈りを除外していただいたところ、草丈が1.5メートルにも成長して、秋には薄紫色のきれいな花が咲きました。また、フジバカマの花にひかれて、長距離の旅をするアサギマダラの姿が見られるようになりました。

この野川で咲いたフジバカマの花の種を採種して、ポットに蒔いて、苗を作ってみました。出来た苗は、これまで、大沢コミュニティ・センターの花壇、三鷹市星と森と絵本の家の花壇、野川の源流日立製作所中央研究所の庭園などにも植えていただき、花を楽しんでいただいています。



フジバカマ



「渡り蝶」アサギマダラ

みたか環境活動推進会議 委員のコメント

渡り鳥はよく知られていますが、渡り蝶々のことはあまり知られていないと思います。投稿いただいた記事の中で登場するアサギマダラは、日本で見られる蝶の中で唯一「渡り」をする蝶で、二千キロ移動することもあると言われています。しかし、「渡り」を行う目的については様々な学説があり、現在も正確な理由はわかってないようです。アサギマダラとフジバカマの姿を、これからも三鷹の地で見続けられることを望みます。(鈴木)

生ごみを電気と都市ガスに変える

先日、東京都スーパーエコタウン※の「バイオエナジー株式会社」を見学してきました。食品廃棄物（生ごみ）を利用して電気と都市ガスを生み出す会社です。

食品廃棄物は、家畜の餌や肥料へ転換することが主流でしたが、塩分や肥分がなく、雑物の混じっていないものに限られていました。そのため、食品廃棄物の大部分はリサイクルが可能であるのに焼却処分されているという実情がありました。

ここでは、受け入れた食品廃棄物を破砕機選別機で生ごみ以外の包装トレイ、ビニール類、紙類、割箸等の発酵に不向きなものを取り除き、メタン発酵の原料を作ります。この原料を発酵槽で三十日間かけてメタン発酵を行うことでバイオガスが発生します。そして、発生したバイオガスでガスエンジン発電機を動かして発電します。発電機は、一日24,000kwh、およそ2,400世帯をまかなえる電力を生み出します。また、発生したバイオガスを都市ガスとして供給する事業の実用化を開始しており、その供給量は一日2,400m³にもなり、2,000世帯をまかなえるそうです。

生ごみを電気と都市ガスにリサイクルする事業は日本初とのことですが、「ごみの増加」と「限りあるエネルギー（化石エネルギー）の消費」を解決するため、地球温暖化防止にも繋がります。環境にやさしくエネルギーを創出する素晴らしい事業であるため、三鷹でも電気だけではなく、ガスなどの様々なエネルギーを供給できるようになれば良いと思います。（大平）

※廃棄物問題の解決と新たな環境産業の立地を促進し、循環型社会への変革を推進することを目的に、国の都市再生プロジェクトの一環として、東京臨海部の都有地において、民間事業者等が主体となり廃棄物処理・リサイクル施設の整備を進めるもの。

地球温暖化防止に苗木を一本。孫たちの笑顔のために私ができること。

世界気象機関（WMO）は平成29年2月、今年1月に観測された北極海の海水の面積が史上最少だったと発表しました。

これは、日本の本州の面積より大きな範囲が失われたことを意味しています。また、南極側を覆う氷の面積も同様に最小となっています。

これらは、地球規模の温暖化によるものとみられ、予想以上に温暖化が進行している、という記事を目にしました。

確かに、地球の個々のバランスが崩れてきているように感じます。



報道などでは、温暖化を起こしているのは、人間社会が排出する二酸化炭素が最も大きいという事実と同時に、温暖化を防止する方法の一つとして、植林が有効であると伝えています。

植物は、二酸化炭素を吸収し、それを自らの養分とし、酸素を吐き、二酸化炭素の循環に貢献し、古来、私たち人間を含め、地球の生き物を「黙って」支えてきました。

都市住民の一人として、温暖化の進行を抑止するため、消費電力の減量、節水、ごみの減量化などを心がけることと同時に、成長していく孫・次世代の子らの将来、その日常を笑顔で暮らしていけるように、温暖化防止に微々ではありますが、一本の苗木を育てることから始めたいと思います。（林）

編集後記

3月現在、梅も開花し、房総では黄色い菜の花畑が鮮やかである。まもなく桜の開花を迎え、本格的に春の季節に変わろうとしている。

本誌に投稿されたように、フジバカマ（藤袴）とアサギマダラ（蝶）が三鷹でも観察できることに感動を覚える。

フジバカマの花言葉は「ためらい・遅れ」であり、小花が少しずつ咲くことにちなんでいる。また、アサギマダラは、諸説あるがフジバカマなどの特定の蜜を求めて小さい体で広い海を越え、台湾から日本の東北地方まで二千キロメートルも飛ぶこともある。近年では温暖化の影響か、北海道、サハリンでも観測されるようになってきているとのことであり、改めて地球温暖化・地域環境の変化が進んでいることを実感させられる。（平澤）

次回の発行は平成29年7月の予定です。

発行：みたか環境活動推進会議
（愛称 みんなの環境）

連絡先：三鷹市生活環境部環境政策課
電話 0422-45-1151 内線2523・2524
E-mail:kankyo@city.mitaka.tokyo.jp

本誌は、市役所、市政窓口、図書館、コミセンや市のHPから入手できます。